

教科〔外国語〕種目〔英語〕

令和3年度から使用する中学校用教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [ 外国語 ] 種 目 [ 英語 ]

2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、国際平和文化都市であり、外国から多くの人々が平和記念公園や原爆ドーム等を訪れる地域である。本市では、平成22年度より「ひろしま型カリキュラム」の1つとして、先行して小学校第5学年から「聞くこと」「話すこと」を中心に学習する英語科を実施しており、中学校における外国語科への円滑な接続を図ってきた。さらに、平成30年度より「自分のことばで世界を語れる広島人の育成」を目指す「国際人」のイメージとして掲げ、英語授業の充実、英語を使う場の創出、小中連携の3つの柱において、教育方法の研究・開発を進めるとともに、外国語科の指導体制を見直し、生徒の英語運用能力の育成を図っている。

○ 平成31年度の「全国学力・学習状況調査」によると、本市の生徒の学力の実態として、「聞くこと」については、おおむね学習内容は定着しているが、「読むこと」については、まとまりのある文章を読んで説明文等の大切な部分を理解すること、また「書くこと」については、与えられた情報に基づいて正確に書くこと、自分の考えや意見を書くことに課題がある。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 言語に関する理解を深めるための工夫 ② 第1学年導入期における小学校外国語科からの接続の工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたりするための工夫 ④ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量
<内容の表現・表記>	⑥ 他教科や日常生活との関連の示し方 ⑦ 本文の記述・内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方や巻末資料の工夫
<言語活動の充実>	⑧ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた、複数の領域を統合した言語活動の工夫

令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教科 [ 外国語 ] 種 目 [ 英語 ]  
2 調査・研究の観点及び教科書の特徴

観点	東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
① 言語に関する理解を深めるための工夫	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の最初のパートの「Scenes」に、2コマ漫画の会話文内に示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Preview (場面の聞き取り) ・Scene 1, 2 (本文読み取り・新出表現の導入・練習) ・Mini Activity (領域を統合した活動) ・Read & Think 1, 2 (本文読み取り・練習) ・Unit Activity (領域を統合した活動) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末資料編の「Key Sentence」に、英語と日本語で示している。また、第3学年は、第1・2学年の基本文も英語で示している。	○ 新出単語は、各学年でアクセント表記とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の最初のパートの「Scenes」に、2コマ漫画の会話文内に示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Scenes (2コママンガでの新出表現導入・言語活動) ・Think (本文読み取り) ・Retell (本文を自分のことばで再現) ・Interact (自己表現活動) ・英語のしくみ (学習事項のまとめ) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末資料編の「Scenes」に、英語と日本語で示している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の最初のパートの本文の後に、「Key Sentences」として、示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Get (本文読み取り・新出表現の導入) ・Use Read (本文読み取り) ・Use Speak/Write (自己表現活動) ・Take Action! ・Get Plus ・文法のまとめ (学習事項のまとめ) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末資料編の「基本文のまとめ」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、前年度までの基本文も英語で示している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各パートの本文の後に、「Key Sentences」として、示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Part 1 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 2 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 3 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Task (領域を統合した活動) ・Grammar (学習事項のまとめ) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末資料編の「重要構文習得リスト」に、英語と日本語で示している。また、第2・3学年は、前年度までの基本文も英語と日本語で示している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各パートの本文の後に、「基本文」として、示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Part 1 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 2 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 3 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Goal (領域を統合した活動) ・Active Grammar (学習事項のまとめ) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末資料編の「基本文のまとめ」に、英語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、各パートの右ペーτζ下部に、オーディオマークを付して示している。また、第2・3学年の巻末付録「音声のまとめ」に、つづりと発音のルールを示している。	○ 新出単語は、第1学年では、アクセント表記とともに、第2・3学年では、発音記号とともに示している。 ○ 基本文は、各学年、各単元の各パートの本文の後に、「Target」として、示している。 ○ 各単元は、主に以下のような構成となっている。 ・Part 1 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 2 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Part 3 (本文読み取り・言語表現の導入・言語活動) ・Read & Think (本文の読み取り) ○ 基本文のまとめは、各学年の巻末付録の「基本文のまとめ」に、英語と日本語で示している。 ○ 音声に関わる事項は、各パートの左ペーτζ下部に、顔マークを付して示している。また、各学年の巻末付録「英語とつづりの発音」に、つづりと発音のルールを示している。
② からの1学年の導入における小学校英語科	○ 第1学年の巻頭「Unit 0」に、小学校で習った表現について、「聞く・話す(やり取り)」活動や、アルファベットの名前と音の確認を扱っている。また、小学校で習った表現等とわかる「小」マークで示している。 ○ 第1学年の巻頭「Unit 0」のPart 2や、巻末資料編の「英語の音と文字」に、発音記号と発音の仕方を示している。 ○ 各学年の巻末資料編「小学校の単語」に、発音記号、日本語の意味を表記した一覧を、アルファベット順に掲載している。	○ 第1学年の巻頭「Starter 1」や巻末付録の「Sounds」つづりと発音の聞き取りや練習、発音記号と発音のルールを示している。 ○ 第1学年の巻末資料「小学校で学んだ単語」に、日本語の意味を表記した一覧を、小学校で学習した単語に星マークを付して掲載している。	○ 第1学年の巻頭「Springboard」に、アルファベットや小学校で習った表現について、「聞く・話す(やり取り)」活動や練習を扱っている。 ○ 第1学年の巻頭「Springboard 3」や巻末付録の「つづりと発音」に、発音の練習、発音記号と例を示している。 ○ 第1学年の巻末資料「Word List①」に、小学校で学習した単語の一覧を、日本語の意味とともに掲載している。また、赤マスキングシートで英語を隠せるように示している。	○ 第1学年の巻頭「Let's Be Friends!」に、アルファベットや小学校で習った表現について、「聞く・話す(やり取り)・書く」活動を扱っている。 ○ 第1学年の巻頭「Let's Be Friends! 7」に、英語の音とつづりや発音の仕方を示している。 ○ 第1学年の巻末付録「Word List」に、第1学年の巻頭「Let's Be Friends!」等の単語を掲載している。	○ 第1学年の巻頭「Let's Start」に、アルファベットや小学校で習った表現について、「聞く・話す(発音)・読む・書く」活動を扱っている。 ○ 第1学年の巻頭「Let's Start 4」⑥や巻末付録の「英語のつづりと発音」に、発音の聞き取りや練習、文字・単語の例・発音の仕方を示している。 ○ 第1学年の巻末付録「Word Box」に、小学校で学習した単語の一覧を、日本語の意味とともに、グループ別に掲載している。	

観点	視点	東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
観点 2 主体的に学習に取り組む工夫	③ 興味・関心を持たせ、見通しを立てたり、学習を振り返って次につなげたり ④ 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図るための工夫	<p>○ 「学習をふり返ろう-CAN-DO リスト」を裏見返しに掲載しており、小学校から高等学校を含め、前学年、当該学年、次学年の目標を示している。また、Stage を3つに分け、自己評価できるようにしている。</p> <p>○ 単元の目標を、第1学年では活動について、第2学年以降は題材と活動について、「～することが出来る」の形で、扉に日本語で示している。また、単元の終末に、生徒が目標について自己評価する箇所を設けている。</p> <p>○ 第3学年の Let's Read 1 「A Mother's Lullaby」で、広島原爆や、オバマ大統領の来広について扱っている。</p> <p>○ 各単元の「Unit Activity」に、おもてなしプランをメールで知らせるなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。</p> <p>○ 各学年6～7回の「Let's Write」及び「Let's Talk」に、ホテルで苦情を言う、雑誌の記事への意見を書くなどの場面を設定し、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 第1学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを31例示している。</p>	<p>○ 「英語で『できる』ようになったこと」リストを巻末資料に掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。また、「でできる」というように、自己評価できるようにしている。</p> <p>○ 単元の目標を、「～する」の形で、扉に日本語で示している。また、各目標に対して、各レベルの目標を、各パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。さらに、単元の終末に、各目標に対する「ふり返ろう」を設定している。</p> <p>○ 各パートに設定されている知識・技能等に関する目標について、達成度を評価する「Think &amp; Try」を設定している。</p> <p>○ 第3学年の Reading 2 「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチを題材として、原爆に遭った少女の話や映画、オバマ大統領の来広について扱っている。</p> <p>○ 各単元、各パートの「Think &amp; Try」に、会話を演じて練習を考えるなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。</p> <p>○ 各学年3～6回の「GET Plus」及び各学年6回の「Take Action」に、演義の仕方を教えるなどの場面を設定し、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 各学年4～6回の「Power-Up」及び各学年5～7回の「Steps」に、文の内容を整理し、書いたりするなどの、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 第1学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを12例示している。</p>	<p>○ 「What Can I do?」を裏見返しに掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。</p> <p>○ 単元の目標を、「USE」パートごとと、「～しよう」の形で、扉に日本語で示している。</p> <p>○ 第3学年の Lesson 3 「The Story of Sadako」で、佐々木禎子さんについて扱っている。</p> <p>○ 各単元の「USE」に、20歳の自分へのビデオメッセージを作成するなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。</p> <p>○ 各学年3～6回の「GET Plus」及び各学年6回の「Take Action」に、演義の仕方を教えるなどの場面を設定し、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 第1学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを32例示している。</p>	<p>○ 「CAN-DO 自己チェックリスト」を裏見返しに掲載しており、前学年、当該学年、次学年の到達目標を示している。また、4段階で示された顔マークを付して、到達度を自己評価できるようにしている。</p> <p>○ 単元の目標を、「Speak about ～」や「Talk and Write about ～」の形で、扉に英語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。さらに、単元の終末に、各目標に対する「ふり返ろう」を設定している。</p> <p>○ 各パートに設定されている知識・技能等に関する目標について、達成度を評価する「Think &amp; Try」を設定している。</p> <p>○ 第3学年の Reading 2 「My Prayer for Peace」で、広島に住んでいる中学生のスピーチを題材として、原爆に遭った少女の話や映画、オバマ大統領の来広について扱っている。</p> <p>○ 各単元、各パートの「Think &amp; Try」に、会話を演じて練習を考えるなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。また、該当パートの「Useful Expressions (特設コーナー)」に、自己表現のヒントを示している。</p> <p>○ 各学年1～2回の「Useful Expressions (特設ページ)」及び各学年1～4回の「Tips for Speaking」, 「Tips for Writing」に、欄外案内などの場面を設定し、「話す・書く」技能に関するコツを示すとともに、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 第1学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを20例示している。</p>	<p>○ 「CAN-DO List」を巻末付録に掲載しており、学年ごとに、レベルが上がるように到達目標を示している。また、4段階で示された顔マークとチェック欄を付して、到達度を自己評価できるようにしている。</p> <p>○ 単元の目標とそれに関わる技能を、「～することが出来る」の形で、扉に日本語で示している。また、単元の終末に、目標に対応した「ふり返り」を設けている。</p> <p>○ 第3学年の Unit 3 「Lessons From Hiroshima」や Let's Read 1 「From the Diary of Kawamoto Itsuyoshi」で、ピースボランティアや原爆で犠牲になった中学生の日記を扱っている。</p> <p>○ 各単元の「Goal」に、今の自分を伝えるスピーチをするなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。</p> <p>○ 各学年4～8回の「Daily Life」及び各単元の「Goal」に、留守番電話などの場面を設定し、自己表現活動を設けている。</p> <p>○ 各学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを、第1学年20例、第2学年16例、第3学年15例示している。</p>	<p>○ 「CAN-DO リスト」を巻末に掲載しており、各学年、3年間での到達目標を示している。また、チェック欄を付して、自己評価できるようにしている。</p> <p>○ 単元の目標を、「～することが出来る」の形で、第1学年は単元1ページ目の上部に、第2・3学年は扉に日本語で示している。また、パートごとに、「～しよう」の形で、各ページの上部に、知識・技能等の目標を日本語で示している。</p> <p>○ 第3学年の Unit 3 「Passing Down Memories」で、語り部伝承プロジェクトを扱っている。</p> <p>○ 各単元の「Express Yourself」に、好きな有名人を説明するなどの場面を設定し、生徒が考えて「話す・書く」活動を設けている。</p> <p>○ 各学年6～9回の「Let's Talk」に、食事などの場面を設定し、生徒がやり取りするために必要な表現を練習する活動を設けている。</p> <p>○ 各学年の巻頭に、授業中の指示などのクラスルームイングリッシュを、第1学年25例、第2学年31例、第3学年31例示している。</p>

視点	東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量	<p>○ 過去形は、第1学年 Unit 5 (全11) で初出である。</p> <p>○ 受け身は、第2学年 Unit 7 (全7) で初出であり、第3学年 Unit 0 (全6) で再度扱う。</p> <p>○ 現在完了形は、第3学年 Unit 1 (全6) で初出であり、現在完了進行形は第3学年 Unit 2 (全6) で初出である。</p> <p>○ 仮定法は、第3学年 Unit 6 (全6) で初出である。</p> <p>○ 第2・3学年の巻頭「Unit 0」に、前学年の復習ページを設定している。</p> <p>○ 既習の知識・技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動「Our Project」を、各学年2～4単元ごとに配置している。</p> <p>○ 「読む」技能に焦点を当てた活動「Let's Read」を、各学年2～3回配置している。また、習熟の程度に応じた扱うことができる読み物教材「Optional Reading」を、各学年2～3回配置している。</p>	<p>○ 過去形は、第1学年 Lesson 9 (全10) で初出である。</p> <p>○ 受け身は、第2学年 Lesson 6 (全7) で初出である。</p> <p>○ 現在完了形は、第2学年 Lesson 7 (全7) で初出であり、現在完了進行形は第3学年 Lesson 8 (全8) で初出である。</p> <p>○ 仮定法は、第3学年 Lesson 7 (全7) で初出である。</p> <p>○ 第2・3学年の巻頭「Starter」に、前学年の復習ページを設定している。</p> <p>○ 既習の知識・技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動「Project」を、各学年2～3単元ごとに配置している。</p> <p>○ 「読む」技能に焦点を当てた活動「Reading for Information」を、各学年2～4回配置している。また、習熟の程度に応じた扱うことができる読み物教材「Further Reading」を、各学年1～2回配置している。</p>	<p>○ 過去形は、第1学年 Lesson 4 (全9) で初出である。</p> <p>○ 受け身は、第2学年 Lesson 7 (全9) で初出である。</p> <p>○ 現在完了形は、第3学年 Lesson 1 (全7) で初出であり、現在完了進行形は第3学年 Lesson 2 (全7) で初出である。</p> <p>○ 仮定法は、第3学年 Lesson 5 (全5) で初出である。</p> <p>○ 第2・3学年の「Review Lesson Part」に、前学年の復習ページを設定している。</p> <p>○ 既習の知識・技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動「Project」を、各学年1～7単元ごとに配置している。</p> <p>○ 「読む」技能に焦点を当てた活動「Reading」を、各学年2～3回配置している。また、習熟の程度に応じた扱うことができる読み物教材「Further Reading」を、各学年1～4回配置している。</p>	<p>○ 過去形は、第1学年 Unit 7 (全8) で初出である。</p> <p>○ 受け身は、第2学年 Unit 8 (全8) で初出であり、第3学年 Unit 1 (全8) で再度扱う。</p> <p>○ 現在完了形は、第3学年 Unit 2 (全8) で初出であり、現在完了進行形は第3学年 Unit 3 (全8) で初出である。</p> <p>○ 仮定法は、第3学年 Unit 8 (全8) で初出である。</p> <p>○ 既習の知識・技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動「You Can Do It!」を、各学年2～3単元ごとに配置している。</p> <p>○ 「読む」技能に焦点を当てた活動「Let's Read」を、各学年2～3回配置している。また、習熟の程度に応じた扱うことができる読み物教材「Let's Read More」を、各学年1～3回配置している。</p>	<p>○ 過去形は、第1学年 Unit 8 (全10) で初出である。</p> <p>○ 受け身は、第2学年 Unit 8 (全8) で初出である。</p> <p>○ 現在完了形は、第3学年 Unit 1 (全6) で初出であり、現在完了進行形は第3学年 Unit 2 (全6) で初出である。</p> <p>○ 仮定法は、第3学年 Unit 6 (全6) で初出である。</p> <p>○ 既習の知識・技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動「Project」を、各学年2～3単元ごとに配置している。</p> <p>○ 「読む」技能に焦点を当てた活動「Let's Read」を、各学年1～2回配置している。</p>	
⑥ 内容の構成・配列・分量	<p>○ 第1学年 サイズ A4判 重さ 約405g 174ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ A4判 重さ 約390g 166ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ A4判 重さ 約380g 162ページ</p>	<p>○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約375g 168ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約360g 168ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約345g 160ページ</p>	<p>○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約355g 186ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約340g 182ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約350g 182ページ</p>	<p>○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約365g 170ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約360g 174ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約360g 174ページ</p>	<p>○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約380g 190ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約380g 180ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約380g 188ページ</p>	<p>○ 第1学年 サイズ AB判 重さ 約320g 158ページ</p> <p>○ 第2学年 サイズ AB判 重さ 約340g 166ページ</p> <p>○ 第3学年 サイズ AB判 重さ 約305g 150ページ</p>

観点	東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
⑥	他教科との関連において、特設ページの「Learning」に、地図や食品表示、情報技術の進歩についての題材を示している。また、「Let's Write」に、グラフや表から読み取った情報をもとに説明する課題等を設定している。	他教科との関連において、特設ページの「Word Web」に、スリーブの材料、楽器、家具の名前を英語で示している。また、本文に、広島に送られる折り鶴とその再生から、平和や環境について考える課題等を設定している。	他教科との関連において、特設ページの「Reading for information」に、公園の看板やサラダのレシピなどを題材として示している。また、本文に、環境保護やアメリカの公民権について考える課題等を設定している。	他教科との関連において、本文に、風力発電や太陽光エネルギーなどの再生可能エネルギーなどを題材として示している。また、原爆投下後の広島やアメリカ大統領の広島訪問を扱うなど、国際平和について考える課題等を設定している。	他教科との関連において、本文に、自然災害やミュージカルなどを題材として示している。また、AI技術の進歩に伴う日常生活の変化について考える課題等を設定している。	他教科との関連において、第2・3学年の特設ページ「More Information」と本文に、自然災害、動物の生態などを題材として扱っている。また、表やグラフから読み取ったことを説明する課題等を設定している。
⑦	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「絶滅のおそれのある動物たち」、「ラジオの災害情報」などを扱っている。	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「自然を利用して開発された技術」、「ゴミ問題」などを扱っている。	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「再生可能エネルギー」、「北海道のオオワシの保護活動」などを扱っている。また、各学年の目次に、単元名とともに、SDGsに関するテーマを示している。	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「買物や観光案内所などの日常生活の場面」を扱っている。	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「地震の避難訓練」、「アラスカチックゴミによる環境問題」などを扱っている。	題材は、SDGsの達成に向けたものとなっており、「災害に備えて」、「動物の珍しい生態」などを扱っている。
⑧	各学年の特設ページ「Let's Listen」等に、電車の運行情報や店内のアナウンスなどの日常生活の場面を扱っている。	各学年の特設ページ「Take Up」に、レストランでの食事や非常時のアナウンスなどの日常生活の場面を扱っている。	各学年の特設ページ「Take Action」に、競技会場でのアナウンスや映画の紹介などの日常生活の場面を扱っている。	各学年の特設ページ「Useful Expressions」に、買い物や観光案内所などの日常生活の場面を扱っている。	各学年の特設ページ「Daily Life」に、ラジオの中継やイベントのお知らせなどの日常生活の場面を扱っている。	各学年の特設ページ「Let's Listen」等に、コマースや旅行の準備などの日常生活の場面を扱っている。
⑨	各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめられるようなイラストや写真が示されている。また、第3学年の表見返しに、SDGsに関するテーマを示している。	各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめられるようなイラストや写真が示されている。また、各単元の「Retail」に、再話活動で活用する、場面ごとのイラストや写真を掲載している。	各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめられるようなイラストや写真が示されている。また、SDGsに関するテーマとなっている。	各学年、各単元の冒頭に、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。	各学年の冒頭や各単元で、学習内容のイメージがつかめられるようなイラストや写真が示されている。また、巻末の帯教材に、再話活動で活用する、場面ごとのイラストや写真を掲載している。	各学年、各単元の冒頭とパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。
⑩	各学年、各単元や巻末に資料として、コミュニケーションに役立つ「Word Room」をイラスト付で収録している。	各学年、各単元として、コミュニケーション活動に役立つ「Role-Play Sheet」をイラスト付で収録している。	各学年、各単元として、「即興で自分のことや考えを伝える」などのコミュニケーションを行う題材となるカードを収録している。	各学年、各単元として、自分や相手のことについて、即興でやり取りするための「Let's Talk!」を収録している。	各学年、各単元として、自分や相手のことについて、即興でやり取りするための「Let's Talk!」を収録している。	各学年、各単元のパートごとに、ウェブコンテンツへアクセスするQRコードが掲載されている。
⑪	巻末資料の「Optional Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に2～3つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～2つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。
⑫	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に2～3つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～2つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。
⑬	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に2～3つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～2つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～4つ掲載している。	巻末資料の「Further Reading」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。	巻末資料の「Let's Read more」に、習熟の程度に応じて扱うことができる読み物教材を、各学年に1～3つ掲載している。

観点	⑤ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた複数の領域を統合した言語活動の工夫
観点5 言語活動の充実	
東京書籍	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Stage Activity」(年3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く・やり取り」や「聞く・話す(発表)・書く・読む」等、3～5領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「町のおすすめ場所の紹介」や「自分の活動記録」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年後半から、各単元内の「Unit Activity」や、各単元内の「Mini Activity」で設定し、「聞く・読む・話す(発表)・やり取り」等、2～4領域を統合した発信型の言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年14回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Let's Read」や「Let's Write」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」、「書く」の4領域を扱っている。</p>
開隆堂出版	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Our Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「聞く・話す(やり取り)・発表」や「聞く・読む・書く」等、4～5領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「1枚の写真紹介」や「夢の旅行企画」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Interact」で設定し、「話す(やり取り)」に焦点を当てたものと、「話す(やり取り)・発表」等、2～3領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年16回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Power Up」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)・発表」の5領域を扱っている。</p>
三省堂	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「聞く・話す(発表)・やり取り」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「英語のタウंगाイド作成」や「修学旅行のプラン提案」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元末の「Task」や、各単元、各パートの「Think &amp; Try」で設定し、「聞く・書く」、「聞く・話す(発表)」や「読む・話す(発表)・やり取り」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年15回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Take Action! Talk」や「READING FOR FUN」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。</p>
教育出版	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年2～3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「聞く・書く・読む(発表)・やり取り」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「アンケート調査の発表」や「CM作成」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、第1学年中盤から、各単元末の「Task」や、各単元、各パートの「Speak &amp; Write」で設定し、「聞く・話す(やり取り)」や「読む・書く」等、2領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年36回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Tips for Speaking / Listening / Reading / Writing」、「Reading」等で、「聞く」、「読む」、「話す(発表)」、「書く」の4領域を、コズを示すとともに扱っている。</p>
光村図書出版	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「You Can Do It!」(年3回)で設定しており、活動の過程に「読む・話す(発表)」や「聞く・書く・読む(発表)・やり取り」等、2～3領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「学校行事の紹介」や「職業診断チャート作成」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、各学年、各単元末の「Goal」や各パートの「Speak &amp; Write」で設定し、「聞く・話す(やり取り)」や「読む・書く」等、2領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年32回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Your Coach」や「Let's Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。</p>
新興出版社啓林館	<p>○ 既習の知識や技能を統合的に扱って発信に結び付ける活動は、「Project」(年2～3回)で設定しており、活動の過程に「読む・書く」や「読む・書く・話す(発表)・やり取り」等、2～4領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>○ 各活動は、目的・場面・状況が分かるように、「学校紹介」や「伝説行事紹介」等、様々なテーマを設定している。</p> <p>○ 複数の領域を統合した活動は、第2学年初めから、各単元末「Express Yourself」や、各単元、各パートの「Use」で設定し、「聞く・書く・話す(発表)・話す(やり取り)」の4領域を統合した言語活動になっている。</p> <p>(例：第2学年32回)</p> <p>○ 各領域に焦点を当てた活動は、各単元の各パート以外に、「Let's Talk」や「Let's Read」等で、「聞く」、「読む」、「話す(やり取り)」の3領域を扱っている。</p>





教科 [ 特別の教科 道徳 ] 種目 [ 道徳 ]

令和3年度から使用する中学校用教科用図書の調査・研究報告書

1 教科 [ 道徳 ] 種 目 [ 道徳 ]

2 本市の実態や生徒の状況

○ 本市は、「国際平和文化都市」を都市像とし、被爆者の願いや世界恒久平和を願う市民の心を基底として、人間の尊厳や生命の尊さを自覚し、自己共に大切にし、正義感や公正さを重んじ、人と自然の共生する平和な社会を築いていく心を育て、自立して行動する力を養うことを教育の原点とし、広島の子どもたちも「心身ともにたくましく思いやりのある人」として、その可能性を最大限に発揮する教育を推進している。道徳教育においては、平成22年度に策定した「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」を平成27年度には「広島市道徳教育プログラム」として改訂し、指導方法の工夫・改善や、学校教育全体を通じた道徳教育のより一層の充実を図る取組を進めてきた。

○ 本市の生徒は、全国学力・学習状況調査や「基礎・基本」定着状況調査の質問紙調査から、自尊意識・規範意識等が全国平均よりも高く、自分を大切にす気持ちや、規則を守るうとす態度が身に付いていることがうかがえる。平成30年12月に、「広島市いじめ防止対策推進審議会」の答申が出されたことや、踏まえ、各学校において、「いじめ見逃し0（ゼロ）」を目指し取組を進める中で、いじめの認知件数は増加傾向にある。引き続き、いじめの未然防止に向けた取組を推進するとともに、生徒が当事者として、道徳的な課題に主体的に対処することのできる実効性ある力の育成に取り組むことが必要である。

3 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名等の示し方
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ④ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 道徳的価値について自分のこととして考え、自己の生き方につなげる工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 取り扱う内容項目の重点化の傾向 ⑦ いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
＜内容の表現・表記＞	⑧ 他教科との関連の示し方 ⑨ 教材の内容と適切な関連付けがなされたイラスト・写真・ウェブコンテンツ等の示し方
＜言語活動の充実＞	⑩ 考え、議論するための工夫

令和3年度から使用する中学校教科用図書調査・研究報告書

1 教科 [ 特別の教科 道徳 ] 種 目 [ 道徳 ]

2 調査・研究の観点及び教科書の体裁

		発行者				
		東京書籍	教育出版	光文館出版	日本放送出版	学研教育文化
観点	① 道徳科の学び方の示し方	道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「道徳科の学びを深めるために」、短い教材文とともに学習活動を掲載し、道徳の授業の基本的な流れを、また、「話し合いの手引き」に、道徳科における話し合いの進め方の手順や、「同窓カード」として、具体的な進捗方法を示している。	道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「本書で学ぶ皆さんへ」、教材を通して考えを深めるための問いについて、第1教材「道徳の授業を始めよう!」に、1年間に学ぶ22の内容項目や、学習の流れを示している。	道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「道徳科の学び方」に、学習の流れを3つのステップで示している。また、「学びをより深めるための手立て」を写真や吹き出しを用いて示している。さらに、「道徳科で学ぶこと」に、道徳科で何を学ぶのかを4コマ漫画を用いて説明するとともに、よりよく生きるために大切なこととして、4つの視点に分類された22の内容項目を示している。	道徳科の学び方のオリエンテーションとして、各学年の巻頭「考えを深める四つのステップ」に、学習の流れをイラストや吹き出しとともに4つのステップで示している。	道徳科の学び方のオリエンテーションとして、第1学年の巻頭「自分をみつめよう」、第2学年の巻頭「自分を考えよう」、第3学年の巻頭「自分をのびのびと」、道徳科の学び方について、5つのポイントを示している。
	② 主題名等の示し方	各学年、各教材の教材名を掲載し、目次に主題名を示している。	各学年、各教材の巻末「道徳の学びを記録しよう!」に、内容項目を示している。	各学年、各教材の教材名を掲載し、「考えよう」のコーナーに「教材別テーマ」に内容項目を示している。	各学年、各教材の巻末「内容一瞥」及び裏見返しに、内容項目を示している。	各学年の巻末「学習指導要領対応表」に、内容項目を示している。
観点	③ 問題解決的な学習を取り入れた工夫	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を掲載している。また、同じ内容項目を扱う2つの教材を連続して配置している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を掲載している。別冊「道徳ノート」に設けている。また、学習を深められるよう、年間4つの教材を配置し、教材文の終わりに「学習の進め方」のページを設けている。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を掲載している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考えよう」のコーナーに、発問を示すとともに、自分の考えを記入する欄を掲載している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。
	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。	問題解決的な学習に適した教材を各学年に掲載し、各教材文の終わりに「考え、話し合う」のコーナーに、発問を示している。

観点	④ 体験的な学習を取り入れた工夫
観点	観点2 主体的に学習に取り組む工夫
東京書籍	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、直前の教材文に関連した学習「FACTION! (アクション)」に、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「伍こーヒー」(第3学年) C 違法精神、公徳心 ① 「伍こーヒー」で、こーヒーが寝がって、「私」のスカートとノードがよごれてしまったとき、それぞれの人は、どのような気持ちになっただか、下のふき出しに書きましよう。 ② 3人一組になって、「会社員の女性」役、「私」役、「竹内さん」役と、役割を決めましよう。 ③ 役を交差しながら、全員が全ての役を演じましよう。 ④ それぞれの役を演じてみて、気づいたこと、感じたことを書きましよう。 ⑤ こーヒー一組が寝ちそうになつているときに、「会社員の女性」と「私」は、本当はどうすればよかったのでしよう。それを見て、「竹内さん」は何と言ったのでしよう。考えを書きましよう。 ⑥ ⑤で考えたことをもとに、3人でそれぞれ役割を演じてみましよう。 ⑦ 本当はどうすればよいのかを、クワラス全員で話し合いましよう。 ⑧ 今日の学習をふり返って、気づいたこと、感じたことについて話し合いましよう。</p>
教育出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、1〜2つ掲載し、教材文の終わりに「やってみよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「校長先生の横顔面談」(第3学年) B 礼儀 ・ 社会にはさまざまなマナーやエチケットがあります。どのような場面があるか、あげてみましよう。 ・ 皆さんがあげただ中から、グループで一つの場面を演じてみましよう。そして、演じてみた感想を書きましよう。 ・ これまで、エスカレーターに乗るときは「歩く人のために片側をあげる」というのが、最近では「歩行禁止」がマナーになりつつあります。なぜ変わってきたのでしようか。みんなが話し合ってみましよう。</p>
光文館出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、1つ掲載し、教材文の終わりに「見方を変えて」のコーナーに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや吹き出しとともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「二通の手紙」(第3学年) C 違法精神、公徳心 ・ 元さんは、規則を知っていたが、どうして姉弟を動物園の中に入れてのたろう。 ・ 元さんが、「この年になつて初めて考えさせられ」たのは、どんなことだったのたろう。 ・ もし、入園終了時間直後に姉弟がやってしまったら、元さんに戻らしたら、元さんは、どうするたろう。(元さんと姉弟を演じて、考えをみていよう。演じているの姉弟のやり取りから、どんなことを感じたかを書きましよう。)</p>
日本教出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、2つ掲載し、教材文の終わりに「学習の準備方」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、写真とともに示してあり、別冊「道徳ノート」に自分の考えを記入するページを設けている。</p> <p>○ 「学習の準備方」の教材名の下に、どのような体験をとおして何を考えるかを示している。また、教材に関連した資料や演技を見るとききと意見発表のときのポイントを、「学習を深めるヒント」のコーナーに記載している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「出迎え三步、見送り七歩」(第3学年) B 礼儀 ・ お客様を出迎え見送る体験をおしとおしてみよう。 ① お客様の出迎え方と見送り方について、グループで話し合おう。 ・ 家に大切なお客様をお招きするとき、玄関でどのような出迎えればよいのか。 ・ お客様が席を立て、玄関から帰るまで、どのように見送ればよいのか。 ② ①で話し合った出迎え方、見送り方をみんなの前で演技してみよう。 ③ 演技のあと、感想や意見を発表し合おう。 ・ 出迎える側、出迎えられ側、見送る側、見送られる側の思い。 ④ &lt;考えてみよう&gt; 「出迎え三步、見送り七歩」を演み、山折りさんが「『もてなし』の極意」ではないかと感じたのは、どんなことか考えてみよう。 ・ 体験したことにおわせ、お客様と接するとき、どんな心構えが大切かも話し合ってみよう。</p>
学研教育研究	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材文の終わりに「深めよう」のページに、発問や教材の一場面を演じて考えを深める活動を、イラストや自分の考えを記入する欄とともに示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「笛」(第3学年) B 相互理解、寛容 ・ 笛は誰のものにすべきだっただろう。3人の少年アンドレ、マイケル、ピーター、それ以外の人はどうか。○ それ以外の人を演じて、理由を書こう。 ・ 少年たちが笛を誰のものにするか話し合っている場面を演じてみよう。4人組で役割演技を行う。 ① 3人の少年役と仲介役を決める。仲介役は、3人の話を聞き、自分の考えを伝え、解決できるような取捨する。3人の少年は自分の立場から考えを話す。 ② 役割を交代する。4人の役を全員が経験するよように繰り返す。 ③ 仲介役の演技を通して考えたことを話し合う。</p>
腕習堂あかつき	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、各学年、複数掲載し、教材文の終わりに「考える。話し合う」のコーナーに、複数の発問を示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「席を譲られて」(第3学年) B 礼儀 ・ 高橋健二氏のしぐさを見て、「私が見た『美しいもの』とはなんだろう。席を譲られた人の心には、何がなければならぬのだろうか。」 ・ 礼儀に込めなければならぬ心について考えてみよう。 ・ 老人や赤ん坊を抱いた人、障害のある人等に席を譲るとき、どのようなことに心がければよいだろうか。</p>
日本教出版	<p>○ 体験的な学習を促す教材を、複数掲載し、教材文の終わりに「考える。話し合う」のコーナーに、複数の発問を示している。</p> <p>【体験的な学習の例】 「礼儀はなぜ必要なのか」(第3学年) B 礼儀 ・ 次の三つの場面において、「最も礼儀正しい振る舞い」と「最も無礼な振る舞い」は何でしょうか。(初めに人に会う時/不注意で隣の家の窓ガラスを割って謝罪に行く時/プレゼントを人からもらった時) ・ なぜ礼儀正しいことが大切だとされているのでしようか。</p>



発行者

視点	東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文芸出版	学研教育みらい	廣済堂あかつき	日本教科書																																																																																																																																															
⑥ 取り扱う内容項目の重点化の傾向	<p>○ 総ページ数 第1学年：196 第2学年：204 第3学年：204</p> <p>○ 重量 第1学年：約393g 第2学年：約406g 第3学年：約406g</p> <p>○ 判型 AB判 ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>7</td><td>8</td><td>14</td><td>8</td><td>37</td></tr> <tr><td>2</td><td>7</td><td>7</td><td>14</td><td>9</td><td>37</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>7</td><td>15</td><td>8</td><td>37</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	7	8	14	8	37	2	7	7	14	9	37	3	7	7	15	8	37	<p>○ 総ページ数 第1学年：218 第2学年：202 第3学年：202</p> <p>○ 重量 第1学年：約386g 第2学年：約360g 第3学年：約360g</p> <p>○ 判型 B5判 ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td><td>7</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>7</td><td>7</td><td>16</td><td>5</td><td>35</td></tr> <tr><td>3</td><td>6</td><td>5</td><td>15</td><td>9</td><td>35</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	8	12	7	35	2	7	7	16	5	35	3	6	5	15	9	35	<p>○ 総ページ数 第1学年：198 第2学年：206 第3学年：206</p> <p>○ 重量 第1学年：約338g 第2学年：約352g 第3学年：約352g</p> <p>○ 判型 B5判 ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>8</td><td>14</td><td>7</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>11</td><td>6</td><td>13</td><td>7</td><td>37</td></tr> <tr><td>3</td><td>9</td><td>7</td><td>14</td><td>7</td><td>37</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	6	8	14	7	35	2	11	6	13	7	37	3	9	7	14	7	37	<p>○ 別冊「道徳ノート」がある。</p> <p>○ 総ページ数 第1学年：198 (42) 第2学年：198 (42) 第3学年：198 (42)</p> <p>○ 重量 第1学年：約344g (約88g) 第2学年：約344g (約88g) 第3学年：約344g (約88g)</p> <p>※ 別冊は( )に示している。</p> <p>○ 判型 B5判 (B5) ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>7</td><td>15</td><td>7</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>6</td><td>7</td><td>15</td><td>7</td><td>35</td></tr> <tr><td>3</td><td>6</td><td>6</td><td>16</td><td>7</td><td>35</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	6	7	15	7	35	2	6	7	15	7	35	3	6	6	16	7	35	<p>○ 別冊「中学生の道徳ノート」がある。</p> <p>○ 総ページ数 第1学年：186 (52) 第2学年：170 (52) 第3学年：166 (52)</p> <p>○ 重量 第1学年：約378g (約118g) 第2学年：約350g (約118g) 第3学年：約342g (約118g)</p> <p>※ 別冊は( )に示している。</p> <p>○ 判型 AB判 (AB) ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr> <tr><td>3</td><td>8</td><td>7</td><td>12</td><td>8</td><td>35</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	8	7	12	8	35	2	8	7	12	8	35	3	8	7	12	8	35	<p>○ 総ページ数 第1学年：194 第2学年：194 第3学年：194</p> <p>○ 重量 第1学年：342g 第2学年：342g 第3学年：342g</p> <p>○ 判型 B5判 ○ 各内容項目の数</p> <table border="1"> <tr><th>学年</th><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th><th>計</th></tr> <tr><td>1</td><td>6</td><td>8</td><td>17</td><td>6</td><td>37</td></tr> <tr><td>2</td><td>7</td><td>8</td><td>15</td><td>7</td><td>37</td></tr> <tr><td>3</td><td>7</td><td>7</td><td>15</td><td>8</td><td>37</td></tr> </table>	学年	A	B	C	D	計	1	6	8	17	6	37	2	7	8	15	7	37	3	7	7	15	8	37
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	7	8	14	8	37																																																																																																																																																	
2	7	7	14	9	37																																																																																																																																																	
3	7	7	15	8	37																																																																																																																																																	
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	8	8	12	7	35																																																																																																																																																	
2	7	7	16	5	35																																																																																																																																																	
3	6	5	15	9	35																																																																																																																																																	
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	6	8	14	7	35																																																																																																																																																	
2	11	6	13	7	37																																																																																																																																																	
3	9	7	14	7	37																																																																																																																																																	
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	6	7	15	7	35																																																																																																																																																	
2	6	7	15	7	35																																																																																																																																																	
3	6	6	16	7	35																																																																																																																																																	
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	8	7	12	8	35																																																																																																																																																	
2	8	7	12	8	35																																																																																																																																																	
3	8	7	12	8	35																																																																																																																																																	
学年	A	B	C	D	計																																																																																																																																																	
1	6	8	17	6	37																																																																																																																																																	
2	7	8	15	7	37																																																																																																																																																	
3	7	7	15	8	37																																																																																																																																																	
⑦ いじめの問題や現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、3つの教材で構成したユニーク色の枠で示している。また、ユニーク色の枠で示している。また、ユニーク色の枠で示している。</p> <p>○ 各学年、特集ページ「いじめに立ち向かう」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻頭「この教科書で学んでいくテーマ」に、現代的な課題を「いじめ・人権」など6つのテーマで教材名とともに示している。</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、2～5つの教材を掲載している。複数の教材やコラムで構成したユニーク色の枠で示している。また、ユニーク色の枠で示している。</p> <p>○ 各学年、特集ページ「いじめに立ち向かう」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻頭「この教科書で学んでいくテーマ」に、現代的な課題を「いじめ・人権」など7つのテーマで教材名とともに示している。</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、3つの教材を掲載している。複数の教材やコラムで構成したユニーク色の枠で示している。また、ユニーク色の枠で示している。</p> <p>○ 各学年、特集ページ「いじめに立ち向かう」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻頭「この教科書で学んでいくテーマ」に、現代的な課題を「いじめ」などに10のテーマで教材名とともに示している。</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、5～7つの教材を掲載している。複数の教材やコラムで構成したユニーク色の枠で示している。また、ユニーク色の枠で示している。</p> <p>○ 各学年、コラム「プラットフォーム」を設け、いじめと向き合うための資料とともに発問を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻頭「さまざまなテーマで学ぼう」に、現代的な課題を「いじめ」を大きくする」など6つのテーマで教材名とともに示している。</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、4～6つの教材を掲載している。</p> <p>○ 第1学年に、コラム「クローズアップ」を設け、いじめと向き合うための資料を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻末「内容一覧」に、現代的な課題を「いじめ」など3つのテーマで示している。</p>	<p>○ いじめを自分の問題として考え、議論することができるよう、各学年、4～6つの教材を掲載している。</p> <p>○ 各学年、巻末の特集ページ「いじめを許さない私たちの心」及び別冊に、いじめと向き合うための資料を掲載している。</p> <p>○ 各学年の巻末「内容一覧」に、現代的な課題を「いじめ」など3つのテーマで示している。</p>																																																																																																																																																
視点	A: 主として自分自身に関すること (6) / B: 主として人と人との関わりに関すること (4) / C: 主として集団や社会との関わりに関すること (9) / D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること (4)																																																																																																																																																					
視点3 内容の構成・配列・分量																																																																																																																																																						

